

島 施 設 号  
平成 20 年 10 月 7 日

国土交通省道路局長 様

島牧村長 藤 澤



今後の道路行政についての意見・提案について

平成 20 年 9 月 19 日付 国道企第 37 号をもってご照会のありました標記のことについて、別紙のとおり提出しますのでよろしくお取り計らい願います。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道島牧村

改善すべき点、要望や提案など

●『既存道路の維持管理の強化と体制の整備』について

必要と判断される道路を着実に整備することは、未だ社会的インフラが不十分な北海道にとっては、きわめて重要な問題ではあるが、高速道路などの恩恵を蒙ることの少ない地方にあっては、日常生活に根ざした既存道路に対する十分な管理が必要である。

昨今の維持管理の状況を見ると、一例ではあるが、道路沿線の草刈は年2回程度しか行われず、路面補修は、長期にわたって放置され、更に冬期の夜間除雪は行われななど、地方に住む住民(国民)は、税の再配分を受けている実感が湧かない。今後は新道の整備も必要であるが、既存道路の再整備と維持管理の強化をすべきである。

●『高速道路の通行料金の引き下げ』について

広く走りやすい高速道路網の整備が順次進められ、人と物の移動に必要な『時間』を買うことができることになりつつあるが、特段の理由がない限り、一般庶民には高料金のため使い辛い状況にある。社会実験などとして、ETCとのセットで特定時間内を低減し利用促進をしているが、未だ十分な成果を得ているとは思われない。

渋滞緩和と流通網の高速化などのため高速道路通行料金を低減化することにより、高速料金を賄えるほどの経済的恩恵が得られるのではないかと考える。

●『補助採択基準と構造基準の見直し・緩和』について

地域住民から強い要望のある生活道路であるにも関わらず、距離・幅員が確保できないことや行き止まり路線であることなどから採択基準等に合致せず、財政上整備ができないケースがあり、制度の見直しが必要である。

●予算の確保について

村道維持補修あるいは除雪など道路の維持管理に多額の費用が必要となる上、今後は橋梁の耐震化なども行わなければならない諸費用は増嵩するばかりであり、必要となる予算(財源)の確保について特段の配慮を願いたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

本村の高齢者率は 37.7 歳、に達しており、今後更に増嵩することを想定すると高齢化に対応する医療・福祉サービスの充実が喫緊の課題である。

このような状況下において、昨今の社会的事情から医師の確保は地方独自での解決は極めて困難である。これらがために、地方圏域の住民は都市部に集中する医療機関を利用せざるを得ないが、道路事情は未だ十分とは言えず、不必要な時間と経費を負担しなければならない現状にある。

また地域を構成する 10 集落のうち、3 集落が限界集落となり、更に 2 集落が数年のうちには加わる見込みであり、地域コミュニティ内で高齢者を見守ることが難しい状況になりつつある。

○課題

地域住民の財産と生命を守るためには、迅速な医療サービスときめ細かな福祉サービスの提供が必要であるが、社会的インフラの整備が不十分であり、需要に応じて訪問することもままならない状況にある。

特に、高速ネットワークとしての道路網の整備・防災・減災対策・越波対策が必要であり、これら諸課題の早期完成と除雪体制の強化が課題である

②-2 地域の目指すべき将来像

北海道島牧村

将来に向かって村のめざす姿を、『豊かな自然と人の温かさを育む村』として、保健や医療・福祉サービスが充実し、『ふれあいが多い健康の村』あるいは、水産業や地元産物を生かした加工製造業が盛んな『産業の村』を目指し、住民一丸となって取り組みたいと考えるところから、防災・減災対策が十分に施され、安全に安心して生活できる環境づくりをして参りたい。

本村では、平成 21 年度から全村に敷設した FTTH の利用により、地域一体となった防災・減災への取り組みとして、告知・有線放送並びに地上波デジタル放送を配信する。また高速ブロードバンドが全村に行き渡るため、SOHO の実現が図られ、自然環境に恵まれた地に住みながらも仕事をこなすことが可能となる。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道島牧村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な地震、火災に強い国土作り等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○代表事例 防災事業並びに避難通路の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○期待する効果や評価等 高潮対策事業(海岸擁壁)に併せ、非難通路を整備することで、海岸沿線に居住する住民はより安心な生活が可能となる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○代表事例 歩道のバリアフリー化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○期待する効果や評価等 公共施設・医療施設の集中する地域の国道歩道をバリアフリー化することにより、居住環境が向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○その他 役場・医療施設所在地周辺</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化の防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○代表事例 他事業と一体となった整備事業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○期待する効果や評価等 賀老の滝や自然探索あるいは狩場山登山のため年間 10 万人もの人々が来訪する賀老地区には10, 700haにも及ぶ広大なブナ原生林が自生しており、京都議定書による温室効果ガス削減目標の達成に大きく貢献している。 自然豊かな地域を通過する狭い幅員・未舗装の林道と村道を他事業と一体となった道路整備を推進することにより、多くの国民に地球環境の悪化防止に貢献する本地区を体験させることができ、もって地球環境問題への意識啓発・問題意識の高揚を図り、CO2 削減に向けた生活実践者を育てる事により、地域ブランド力を向上させ地域活性化が図られる。</li> </ul>	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

北海道島牧村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<p>・地域活力の活性化</p>	<p>北海道横断自動車道(黒松内～余市間)の整備</p>	<p>地方に勤務する医師が不足するなど医療体制を取り巻く環境悪化は地方に住む住民に深刻な影響を与えているが、北海道横断自動車道(黒松内～余市間)の整備により住民の医療サービスの向上が図られる。また、北海道の有り余る生産能力を発揮するためには、生産拠点から大消費地並びに移出入拠点である太平洋側に円滑かつ大量に移動が可能となる。</p>	
<p>・計画的・効率的な維持管理や更新の推進</p>	<p>24 時間除雪体制の整備並びに草刈など維持管理の強化</p>	<p>冬期は十分な除雪が行われていないため通院・搬送を見合わせる事がままある。また、草刈・清掃についても、年 2 回ほどしか行われず、視界が遮られるなど交通安全上 危険な状況がある。</p> <p>地方に住む住民にとって国道は生命線ともいえるものであり維持管理の強化により、安心・安全な道路交通の確保が期待できる。</p>	